

基礎・基本の定着と

個性の伸長に関する研究

— 第二年次・実践研究 —

一、研究のねらい

本研究は、学習指導の改善の視点から、個性重視の原則に立ち基礎的・基本的な内容を身につけさせる過程を通して、更にそれを基盤としながら一人一人の個性を生かし、伸ばす学習指導の在り方を追究しようとするものである。

二、第一年次の研究(昭和六十二年)

研究の第一年次は、「基礎・基本」と「個性」に関する文献研究をもとに理論研究を進め、調査用紙を作成して教師対象の実態調査を行った。

その結果、個人差に応じた指導の必要性や一人一人の「見方や考え方」を大切にする指導の重要性が明らかにされた。

三、第二年次の研究(昭和六十三年)

第一年次の調査研究を基に、実践のための理論研究を行い、研究仮説を設定して小学校国語科、社会科、中学校数学科の三教科で実践研究を行った。

(1) 「基礎・基本」、「個性」とそのかわりについて

基礎・基本は学習指導における基礎的・基本的な内容ととらえた。基礎的・基本的な内容は、「学習指導要領における教科の目標・内容」ととらえ、更に児童生徒の実態に即して取り扱われる「教材の価値」を含むものとした。

個性は、児童生徒一人

図1 「よさ」を育てる学習指導の基本型

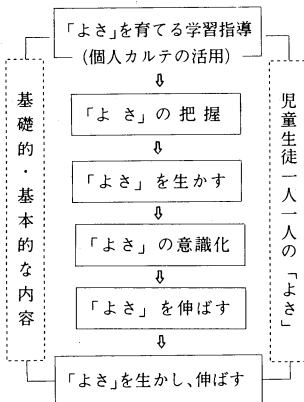


図2

(2) 研究仮説と実践研究の方策

一人の持っている「よさ」としてとらえた。これはどの児童生徒にもかけがえのない特性として見いだされるものである。

基礎的・基本的な内容が定着し、一人一人の「よさ」が生かさ育てられていく過程において判断力、表現力、創造力、思考力等の能力(本研究ではこれらの能力をジェクタビリティと呼ぶ)が深くかわりを持つと考える。つまり、基礎的・基本的な内容の定着を図る過程において、把握した「よさ」を生かす場を設定すれば、ジェクタビリティが刺激され、それぞれが相互に作用し合うことになって、基礎的・基本的な内容の定着が図られ、「よさ」が伸ばされ育てられていくものと考えられる。

【研究仮説】

学習指導において、児童生徒一人一人の持っている「よさ」を把握し、その「よさ」を生かす視点から、達成度の個人差と興味・関心、適性に応じる指導の在り方を工夫すれば、基礎的・基本的な内容を身につけさせるとともに、一人一人の個性を生かし、伸ばすことができるであろう。

実践への方策	実践への具体化の方向
○一人一人の持っている「よさ」の把握	・児童生徒一人一人の持っている「よさ」を把握するために段階に分けた調査をする。 (1) 第1段階の「よさ」の把握—児童生徒の全人的な「よさ」の観点を設けた調査 (2) 第2段階の「よさ」の把握—児童生徒の教科学習に対する「よさ」の観点を設けた調査
○「よさ」を生かす視点	・領域・題材に応じて、教材に対する児童生徒の具体的な見方や考え方が表れる資料を準備する。 ・教材に対する見方や考え方等の「よさ」を学習場面に生かせるような指導の手だてを工夫する。
○達成度の個人差に応じる指導の在り方の工夫	・領域・題材に対する一人一人の達成状況により、個別指導等の個人差に応じた指導の在り方を工夫する。
○興味・関心、適性に応じる指導の在り方の工夫	・領域・題材に応じて、学習方法を選択させたり表現方法を選択させたりする。 ・思考の型、行動特性、表現特性に応じた指導の在り方を工夫する。
○基礎的・基本的な内容を身につけさせる	・領域・題材に応じて、その教材でねらう基礎的・基本的な内容を意図的に取り上げ、定着させ、更に発展的に定着の深まりを目指す。
○一人一人の個性を生かし、伸ばす	・学習内容や学習活動、表現したものなど具体的なものから、観点を設けて自己評価や相互評価などを通して児童生徒一人一人の「よさ」を意識化させていく場を設定する。 ・意識化された「よさ」を生かす指導を繰り返すことによって「よさ」を伸ばしていく。

テーマに沿った「研究仮説」を設定し、仮説を実践的に検証していくために三教科共通に「実践の方策」から「実践への具体化の方向」及び「よ

※ジェクタビリティ(Jectability)： 通語 Judgment (判断), expression (表現), creation (創造), thought (思考)のそれぞれの頭文字に-ability (能力)を合成したものである。